学推だより vol.2

KOKURA
Elementary School
October 21st / TUE / 2014
発行：学推担当

２学期も「めあてとまとめの板書」の継続していきましょう。

見通しを立てたり，振り返ったりする学習活動を大切に。

いよいよ２学期がスタートしました。年度の折り返しにあたり，１学期の学習活動を振り返って，年度当初の取組の継続や修正を図っていきましょう。あわせて，昨日の職員会議でも確認させていただいた「めあてとまとめの板書」を各授業において今学期も継続をお願い致します。

そこで本号では，「なぜ，めあてとまとめを板書しないといけないのか」について，確認したいと思います。

１　学習指導要領による位置づけ

まず，学習指導要領解説総則編（P58~P59）に**「児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫すること」**が示されていることによります。このことについて『初等教育資料』では，「学習意欲の向上と併せて，学習内容の確実な定着や思考力・判断力・表現力等の育成の観点から，見通す・振り返る学習活動を重視しているところである」と補足説明されています。

２　全国学力・学習状況調査および質問紙調査の結果から

次に，全国学テの教科に関する調査と質問紙調査のクロス集計等から文科省が去年１２月に公表した結果が示していることにもよります。その内容は**「見通す・振り返る学習活動と学力との相関関係が見られた」**ということです。

□普段の授業では，はじめに授業の目標（めあて・ねらい）が示されている
□普段の授業では，最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている

この２つの質問に対して，

○「当てはまる」と答えた児童ほど，全ての教科において平均正答率が高い（特にB問題）。
○「よく行った」と答えた学校ほど，全ての教科の平均正答率が５ポイント以上上回っている。
○肯定的に答えた児童ほど，学習意欲（国語，算数は将来役に立つなど）が高い傾向がある。

しかし一方で，

○学校が「見通す・振り返る」学習活動を行っていると考えていても，そのように受け取っていない児童が一定割合存在し，意識の差が見られる。

という４つの結果が出されました。

これらの結果を総括して文科省は，**「児童自身が，その授業において『何を学ぶのか』を理解し，結果として授業で『何を学んだのか』を実感できる学習活動が求められる」**と，『初等教育資料』で補足説明されています。

「めあてとまとめの板書」はあくまでも手段であり，**その目的は，古蔵っ子が「今日は何を学ぶのか」を理解し，「今日の授業で○○を学んだ」と実感すること**にあります。２学期も古蔵っ子の確かな成長のために，みんなでがんばっていきましょう。